

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

アフリカの赤道直下、ヴィルンガ火山群の山地林でマウンテンゴリラの観察を始めて間もないころのことだ。私がゴリラから数メートルの距離を置いて観察していると、近くを通りかかったシリ―という若いオスのゴリラがちらっと私の方を見て近寄ってきた。これはまずい、と私は思った。

それまで野生ニホンザルの調査をしてきた私は、サルに近づかれたらサルのルールに従って行動せよ、という鉄則を守ってきた。ニホンザルの社会では、相手を見つめるのは強いサルの特権である。弱いサルは強いサルに見つめられたら、決して見返してはいけない。目を合わすと挑戦したと受け取られ、強いサルから攻撃されることになるからだ。目をそらすか、歯をむき出して笑ったような表情を浮かべ、自分が逆らうつもりがないことを表明しなければならぬ。そこに相手と競合するような食物があればなおさらのこと、決して食物に手をのばしてはいけない。だいたいサルが近づいてくるとするのは、私の周りにサルの関心を引くものがあるからだし、そのサルは自分の方が私より強いと感じているはずなので、刺激しないようにそっと目を伏せておく方が無難である。

① だから、ゴリラのシリーが近づいてきたときも、私はシリーの方を見ないように目を伏せた。ところが、シリーは一メートル前で止まって、じっと私の顔をのぞきこんだのである。若いオスとはいえ、一〇〇キログラムを優に超える巨漢である。グローブのような手をしているし、長くて鋭い犬歯が光る。つかまれて咬まれてもしたら重傷を負いかねない。私は逆らうつもりがないことを示すため、さらに横を向いた。すると、シリーは私に向けた方へと顔を寄せ、さらに私の顔を正面からじっと見つめたのである。顔と顔の距離はわずか二〇センチほどしかない。私は恐怖に駆られて目を伏せてじっとしていた。意外なことに、シリーはしばらく私の顔をのぞきこむと、低い声でうなり、二、三步遠ざかると、ぽこぽこぽこぽここと両手で力強く胸を打っては足早に遠ざかって行ったのである。

〔引用先 2016 名古屋大学―教育・文 前期〕

山極壽一「負けない構えの美しさをゴリラに学ぶ」

問 傍線部①について、筆者はなぜこのような行動をとったのか。五〇字以内（句読点・かっこ類も字数に含める）で説明せよ。